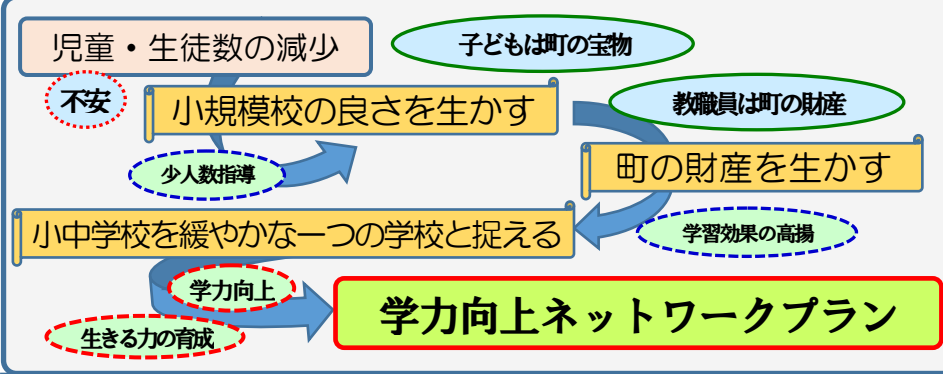


川根本町学校教育ビジョン(2020~2021)

「学力向上ネットワークプラン」

～キャリア教育の理念を基盤としたICT教育の推進と個別最適化された学びへのアプローチ～

町の未来を担う子どもたちは「町の宝物」、その学びを支える教職員は「町の財産」という本町の理念に基づいて、これまで行われてきた小規模校による個に応じたきめ細かな取組をさらに積極的に推進するため「学力向上ネットワークプラン」を構築する。



【ねらい】子どもたちの「生きる力」「確かな学力」を育成する

- ☆一人一人の自立に向けたキャリア教育の推進
- ☆横の連携及び縦の接続による効果的な学習形態の研究と実践
- ☆ICTの効果的な活用による新たな学びの創造

【キャリア教育】

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す。

9年間の積み上げ

- ☆自己肯定感・自尊感情
- ☆自立に必要なキャリア発達

【横の連携と縦の接続】

学習内容に応じて、より効果的な学習の場を創り出し、一人一人に学力の定着を図る。

児童生徒の交流 教職員の交流
個別最適化された学習への指向

- ☆基本的な学力の向上
- ☆豊かな人間性の醸成
- ☆学ぶ意欲・積極的な学習態度

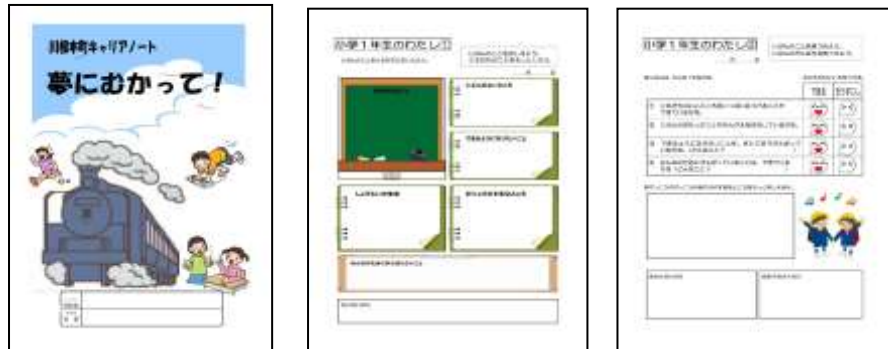
【ICTの効果的な活用】

1人一台タブレットをコミュニケーション・ツールとして、「情報活用力」「情報発信力」等を育成する。

普段使いの励行

- ☆活用力の向上
- ☆新しい学びのスタイルの確立

【町独自のキャリアノート】



※平成28年3月策定の教育大綱に基づき、18年間(0~18歳)までのキャリアを線で結ぶ取組を実践する。

2020 エボリューション(進化・深化)のための具体策

～教育施策で子供たちの未来の姿に責任を持つ～

- 学校教育ビジョンの2年間の継続
 - 一人一人の自立に向けたキャリア教育の推進
 - キャリア発達を促す個別支援のため、キャリアノートを活用する。
 - 全校体制による組織的・計画的な取組を推進し、各校の教育課程のベースとして共有する。
 - 特別支援教育の理念に基づく個別支援と、共生・共育を推進する。
 - 横の連携及び縦の接続による効果的な学習形態の研究と実践
 - YRG授業(横の連携グループ)
 - 同校種間の連携の中で、学習内容や習熟度により、最適人数の授業を創出する。
 - TRG授業(縦の連携グループ)
 - 1校において、複数学年による個別最適化に向けた授業を創出する。
 - 小中学校間の連携により、「学校・学区を知る活動」「中1ギャップの解消に資する活動」を実施する。
 - ICTの効果的な活用による新たな学びの創造
 - 「家庭学習への導入」「反転学習等の手掛かりとしての活用」等によりICT機器の活用の汎用性を促進する。
 - コミュニケーションツールとしての位置付けを図り、他地区、他校との交流活動を推進する。
 - テレビ会議システムによる双方向型の研修、プログラミング学習、タイピング学習を推進する。
- 町内各小中学校の研修支援
 - 主体的で対話的で深い学びを実現する学習活動の創造
 - 授業支援のため、指導主事による学校訪問を実施する。
 - カリキュラムマネジメントによる「探究的学び」を推進する。
 - 町教育会研修主任研修会との連携
 - 川根本町型問題解決的学習の実践について検証する。
 - 振り返りの内容や方法等について、児童生徒の姿で検証する。
- 地域の教育資源の活用による特色ある教育課程の編成
 - コミュニティスクール開設(令和4年度)に向けた準備
 - 「川根本町立学校の今後の方向性」の趣旨を踏まえた、各学校の教育課程のすり合わせ

【川根本町型問題解決学習】

- か**：かならず確認、学習のねらいと内容を確認めよう。
- わ**：わからないことははっきりさせて、まずは自分でチャレンジしよう。
(主体的な学び)
- ね**：ねらいに向かい、みんなで考えを高め合い、深め合おう。
(対話的な学び)
- ほん**：ほんとうに“できたか”“わかったか”学習を振り返ろう。
(深い学び)
- ちょう**：ちょうせん、ちょうせん。新しい学びに進んで挑戦しよう。
子どもたちを学びのプロに！9年間の継続した取組で学びのプロを育成する

2020

川根本町学校教育ビジョン



川根本町教育委員会

令和2年度研修推進構想図

— 川根本町学力向上ネットワークプランの具現化のために —

各校の研修推進とRG授業の検討（研修推進委員会）

1 川根本町の児童生徒に付けたい力

	キャリア発達の実現			
	問題解決力	コミュニケーション力	表現力	振り返り力
中学生	・問題を解決しようとした時、自分の意見を主張したり、実験や資料などを使って検証したりすることができる。 ・新たな課題を見つけ、既習事項を生かし、課題解決をすることができる。	・相手の気持ちや意図を理解しながら聴いたり、伝えたりすることができる。 ・友達と相談したり、協力して活動したりすることができる。また、互いに助け合ったり声を掛け合ったりすることができる。	・自分の思いや考え、疑問点などを自分の言葉で表現することができる。 ・時と場に応じた適切な表現(話し言葉・文章・図・グラフ・絵・立体・ICTの活用……)をすることができる。	・本時の目標を友達や教師と共有し、目標に照らして自己の学びを振り返ることができる。 ・自分と友達との関わりや、友だち同士の関わりを分析し、自己や他者の変容を認めることができる。
小5・6	・友達と考えを共有し、自分の考えをさらによいものとして、主体的に問題を解決することができる。	・話し合いに積極的に参加し自分と異なる意見も理解することができる。 ・相手の立場で考えることができる。	・根拠や理由をはっきりさせ意欲的に発言することができる。 ・他者の表現の良さを取り入れることができる。	・本時の目標を十分に理解し、目標に照らして自己の学びを振り返ることができる。 ・他者との関わりについて気付くことができる。
小3・4	・友達の考えのよさや違いに気付き、自分の考えを深めたり友達の考えを生かしたりしながら、主体的に問題を解決することができる。	・自他のよさに目を向け、互いに認め合うことができる。 ・友達の気持ちや考えを理解し、協力して学習や活動に取り組むことができる。	・自分の考えや思いを、理由付けて分かりやすく話することができる。 ・他者の表現の良さを認めることができる。	・振り返りの中で、本時の目標に対し「できた(又はできなかった)理由」に気付くことができる。
小1・2	・自分の考えをもって友達と関わり合い、学習に取り組むことで、主体的に問題を解決することができる。	・友達と仲良く学習し、助け合うことができる。 ・元気のいいあいさつや返事ができる。	・思いをみんなの前で話すことができる。 ・自分の思いや感じたことを伸び伸びと表現できる。	・振り返りの仕方が理解できる。 ・できるようになったことを自覚することができる。

2 各校の研修テーマと「川根本町の児童生徒に付けたい力」との関連

【町内統一テーマ】主体的・対話的で深い学びが実現する授業づくり～川根本町型問題解決学習の実践と、効果的なICT機器の活用を目指して～

川根本町型問題解決学習
か：「か」ならず確認、学習のねらいと内容を確認しよう
わ：「わ」からないことをはっきりさせて、まずは自分でチャレンジしよう
ね：「ね」らいに向かい、みんなで考えを高め合い、深め合おう
ほん：「ほん」とうに「できたか」「わかったか」学習を振り返ろう
ちょう：「ちょう」せん、ちょうせん。新しい学びに進んで挑戦しよう。

学校名	研修テーマ	各校の重点事項	つけたい力					問題解決力の5視点							
			問	コ	表	か	わ	ね	本	町	か	わ	ね	本	町
南部小	“自分ごと”として本気で考え、本音で語り合える授業		○	○											
中央小	授業中の子どもの「今」を捉えて～自分ごととして学び、関わりながら高め合う子の育成～		○	○											
第一小	みんなが夢中で考え、みんなであつないで深める授業		○	○											
本小	つながる学び		○	○											
中中	生徒が主体的に学ぶ授業づくり～生徒の必要感や思考過程を踏まえた「質の高い学習課題・学習問題」の工夫～		○												
本中	考えを伝え合う授業づくり		○												

3 各校の校内研修への相互乗り入れ

実施日：各校の校内研修実施日
学年：各校の計画による
方法：全教員が、いずれかの学校の授業を参観する。また、必要に応じてオブザーバーとして事後研修会に参加する。

4 RG授業指導案の蓄積

- 学年担当の教頭が保存する。
- 校務支援の共有フォルダ活用について検討する。

令和2年度川根本町教育会の重点目標
豊かな人間関係を築き、未来に向かって自己を高め続ける子供の育成

各校における授業改善
～付けたい力を育む～

- 児童生徒の実態把握と付けたい力の明確化
→RG作業部会で共有
- 「主体的・対話的で深い学びが実現する授業づくり」の推進
- 川根本町型問題解決学習の推進
- 授業における振り返りの時間の位置付け
- 情報教育担当研修会と連携したICT機器の活用と、プログラミング学習、タイピングの推進
- 各校研修会への相互の乗り入れによる授業研究の推進

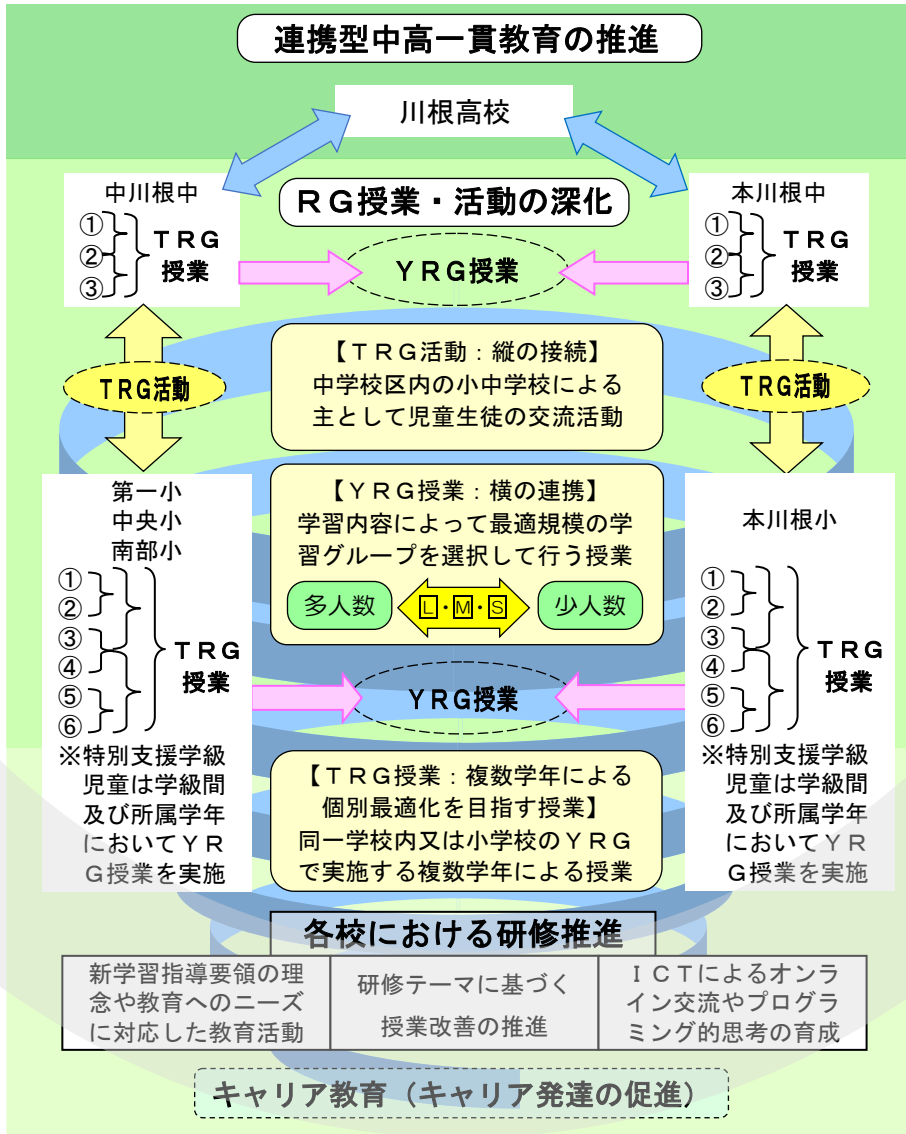
RG授業・活動の実践

- RG授業・活動の目的
 - 最適人数による授業実践
 - 校種間連携による相互理解
 - 校内研修の成果等の確認・共有
 - 教職員の指導力の向上
- RG授業・活動で期待される効果
 - 学力向上
 - 自尊感情の醸成
 - 学ぶ楽しさの実感
 - 新しい人間関係の構築
 - ICT機器活用の汎用化

個別最適化された学びへの指向

- オンライン交流による教科横断的な学びの推進
- 異学年集団における個別テーマに基づく追究・探究活動の推進

川根本町学力向上ネットワークプラン構想図
～小規模校のよさを最大限に生かすアクションプラン～



個別最適化された学びの実現に向けた取組（教務主任、各学年の責任者、授業者）

1 RG授業年間計画【参考】

月	RG研修	小学校			中学校	
		低学年	中学年	高学年	RG研修	RG授業
4	14日(火) ※年間計画	新型コロナウイルスの感染拡大予防措置として、令和2年度のRG授業は実施を見送る。これまでのRG授業を通じて身に付けた資質・能力を「個別最適化された学びの実現」に向けた取組に生かす。			14日(火) ※年間計画	
5	13日(水) 各会場				20日(水) 本中	
6	10日(水) 各会場	4日(木) 南部小	4日(木) 中央小	5日(金) 第一小		25日(木) 本中
7	27日(月) ※後期計画	6日(月) 本小	6日(月) 南部小	7日(火) 中央小	27日(月) ※後期計画	
8						
9	9日(水) 各会場				23日(水) 中中	9日(水) 中中
10	21日(水) 各会場	15日(木) 第一小	15日(木) 本小	13日(火) 南部小		
11		16日(月) 中央小	16日(月) 第一小	17日(火) 本小		

2 東京都東村山市立久米川東小学校との交流（小学校対象事業）※3年継続

- 目的：久米川東小学校の同学年児童と、テレビ会議システム（HDコム）を活用した遠隔交流を行うことで、「探究力」「情報発信（受信）力」「コミュニケーション力」等を身に付ける。
- 対象校：中川根第一小学校、中川根南部小学校、本川根小学校
- 内容等：久米川東小学校の同学年学級と共通のテーマを設定し、ICTを効果的に活用しながら、互いの学びを発表し共有する。6年生の1学級は、11月17日（火）に開催される文部科学省指定研究の公開授業対象学級として参加する。

3 ESDと学校組織・カリキュラム開発（小中学校対象事業）※3年継続

- 目的：義務教育学校の開設を見据え、本町独自の学園構想の一つとして実施したいと考えている「複数学年による授業・活動」等を先行的に実践し、成果や課題を検証する。
- 対象校：【中川根中学校区】中央小学校と中川根中学校
【本川根中学校区】本川根小学校と本川根中学校
- 内容等：各校において複数学年による授業が可能な教科等を設定し、「課題意識の個別化」と「学びのスタイルの最適化」に向けて、実効性の高い授業のあり方を研究する。また、各中学校区においてTRG活動を実施する。

各校研修の評価・改善（研修推進委員会、情報教育担当者研修会）

1 各校研修の評価（研修主任、情報教育担当）

- 各校の研修推進の状況、ICT機器の活用状況等について、町内共通の取組について検証する。
ア 授業改善の進捗状況
(イ) 相手意識を持った対話的な学びが実現されているか。
(ロ) 学習課題や学習問題が「より自分ごと」となっているか。
イ 学びのタイムマネジメント（導入におけるICTの活用、振り返りの充実）
- プログラミング教育（プログラミング的思考を伴う授業、活動を含む）、タイピングの進捗状況

2 遠隔交流による授業・教育活動の評価（研修主任、外国語担当）

- 「遠隔交流による付けたい力」に照らして、児童の学びを検証する。
- 令和3年度以降の交流に向けて、英語を活用した授業の可能性について検討する。

3 ESDと学校組織・カリキュラム開発

- 本町独自の取組としての「TRG授業」「TRG活動」について、「課題意識の個別化」と「学びのスタイルの最適化」をフィルターとして検証する。
- 令和3年度の教育課程編成に反映する情報を提供する。